

円高対策ワーキンググループ発足と 「円高対策短期奨学金」

1980年代半ばに始まった急激な円高は、日本にいた外国人留学生 22,000 人の約 8 割を占める私費留学生の生活を直撃した。

日本とはまだ経済格差のあった東アジア、東南アジアの国々からの私費留学生は仕送りだけでは十分でなく、制限時間ぎりぎりのアルバイトで留学経費をまかなっていたが、その仕送りが約 50% も目減りし、生活に困窮する留学生が続出した。

留学生の母親委員会で短期奨学金支給を決定。6 月、有志による「円高対策ワーキンググループ」が発足し、募金、物品販売の活動を開始。「留学生の母親」運動をあげての協力と、会員の知人や企業などからも多大な支援を得て、1989 年まで月額 2 万円の円高対策短期奨学金を実施することができた。